雑学書庫 知識の記録

グリッドの上に情報を組み立てる、スイス・スタイル（International Typographic Style）

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10864/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

地下鉄の路線案内板や航空会社のロゴ、空港の案内表示を思い浮かべてみると、共通点があります。飾りのない端正な文字がグリッドに沿って左揃えできちんと並び、遠くからでもひと目で読めるのです。こうしたすっきりと整った画面のルーツをたどると、1950年代のスイスのグラフィックデザイナーたちが磨き上げた一つの様式に行き着きます。それが「スイス・スタイル（International Typographic Style）」です。 スイス・スタイルとは、簡単に言えば「目に見えないグリッドの上にサンセリフの文字と写真を非対称に配置し、装飾よりも情報を客観的かつ明快に伝えようとしたグラフィックデザインの様式」を意味します。英語では「インターナショナル・タイポグラフィック・スタイル（International Typographic Style）」と呼ばれ、研究者によっては二つの名前を区別することもありますが、一般には同じ意味で併用されます。 本稿では、スイス・スタイルが生まれた背景から目立つ特徴、ヘルベチカという書体と代表的なデザイナー、そして世界に広がっていった過程とそれに対する評価まで、順に見ていきます。 情報を秩序立てて見せるデザイン、スイス・スタイル スイス・スタイルはどのように生まれたのか？ スイス・スタイルは、1920年代ヨーロッパのモダニズムデザインを受け継ぎ、スイスで一つの体系としてまと